

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

LEADERS AS READER

リーダーたちの本棚 vol.35



阪急交通社 代表取締役社長

生井一郎さん

なまいちろう

「仕事で帰りが遅くなっても、お酒が入っていても、本を読んでからでないと眠れませぬ。年を取った今は無理ですが、昔は枕元に5冊くらい置いて、並行して読み進めるなんていう芸当もやっていました。好きなのは歴史物。大学で世界史を専攻し、卒業後、遅れて日本史にも興味を持つようになり、遅くとも、生井一郎さん。阪急交通社に入社後、若き日は年間2,000日前後ツアーに同行する添乗員として活躍。海外駐在も経験し、欧州への送客の道筋を開いた。2010年4月から経営の舵を取る。

旅を読むで追想する楽しさ

歴史本の中でも特に興味を引かれるのは、欧州史です。入社5年、76年に欧州での短期駐在を経験したことも関係しています。その前年のクリスマスからカトリック教会の「聖年」にあたり、日本の信者が欧州の聖地をめぐるツアーなどに参加し、カトリック文化の奥深さを知ったのです。お客様のなかには、高校生や大学生に読んで衝撃を受け、バイブル代わりにした人もいます。

交際する」と著者が語るように、例えばクレタは「ヴェネツィアは、クレタ人の肉体を押しつけたかもしれないが、精神と芸術を庇護し、その愛別的な庇護のもと、ビザンティンの想像力をいま一度花咲かせた」と描写。今に残る壁画について、「巨大な壁画が小さく破られて、島中にはまかれたかのように、田舎の小さな教会に気前よく描かれている」と伝えます。

の質」が高い消費者と需要があり、商品を生み出す技術を持ちながら、「日本発のプレミアム」が生まれていく最大要因は、作り手の「欲望の質」の低さであるという指摘には、大いに同意しました。プレミアム商品の醸成には時間がかかります。醸成期の利益はゼロどころか、マイナスもあり得るでしょう。ただ、リスクがあっても挑戦していくべき課題で、旅行業界も例外ではないと思います。

「文藝春秋」にみる坂の上の雲とその時代は、「坂の上の雲」で描かれたさまざまな事象は、生々しくかつ客観的にとらえていきます。司馬遼太郎さんのインタビュー、秋山好古、真之兄弟や広瀬武夫など軍人たちの人物論、日本海軍や旅順攻陥戦に参加した兵士たちの証言、バルチック艦隊の幕僚が妻に送った手紙などが続き、「日露戦争をやった人々には、江戸期がつくり上げた人間の精神の二つの美、江戸期がある」「勝つたあとと非常的な国家が変質していく」という「司馬史観」を裏付ける内容のほか、乃木希典の人物評などには、「坂の上の雲」とは違った切り口も見られます。姉妹版の「文藝春秋」にみる坂の上の雲と幕末維新、さらに、司馬遼太郎の語りをもとめた「明治」という国家・日本放送出版協会も良書で、この3冊は若い人が読むといいと思います。また、「文藝春秋」にみる「坂の上の雲」とその時代」に、軍艦「三笠」の保存運動に寄与した人物として、昭和初期に慶應義塾長を務めた小泉信三氏が登場します。小泉氏が太平洋戦争で戦死した息子を文藝春秋で著した「海軍主計大尉小泉信吉」(文藝春秋)は、父子愛が胸を打つ感動の書で、これもお勧めです。

本は友。新聞を開いても つい出版広告が目がいく

「甘い」構造」の著者、精神科医の故・土居健郎さんもおられました。「ヴェネツィア帝国への旅」は、13世紀初頭十字軍のコンスタンティノープル攻略を機にエーゲ海沿岸まで支配を広げたヴェネツィア帝国が、オスマントルコへの攻防で、いかに権民地を失い、ナポレオンに占領されて終焉を迎える18世紀末までの歴史をつづります。トルコのイスタンブール、ギリシャのクレタ島、クロアチアのドロポニックなど、帝国の旧領は今や有数の観光名所で、クルーズでめぐられる旅人もいます。「地図に沿って話を進めるとい意味では旅の書であるが、そこでは時間と空間が自在に

ます。帝国にまつわる各地を訪ねた方は、きっと面白く読めると思います。教会文化を学ぶのに役立つ和辻哲郎さんの著書「イタリア古寺巡礼(岩波文庫)」もあわせて紹介しておきます。

伝です。ホテル事業の成功のカギは、二にも三にもロケーションと言われてきましたが、彼は、現場で働く人の質を第一に掲げます。どの国においても提供するサービスの価値を高め、決して価格を落とさない手法は際立ち、彼こそ「プレミアム」の希求を極めた人物といえるでしょう。ユダヤ系移民の子として育ち、父と共に建築現場で働いた過去や、仕事の人間関係などもつづられ、シャープ氏の人物もつかえ

「ミシュラン 三つ星と世界戦略」は、家族経営のタイマー・カーがレストランの格付けガイドを生み出した背景などを明かします。

海外企業の思想史や 成功物語に「読者の価値

次は、最近読んだ3冊です。「プレミアム戦略」は、本物と上質を追求する生産・消費、すなわち「プレミアム」の希求こそが成熟消費社会の大切な価値観であると説きます。「欲望

高付加価値商品を豊富にそろえ、多様なニーズに対応していききたい」国内外のツアーを提供している「価格以上の価値」を提供する主力ブランドの「トラビックス」、ゆとり重視のツアーを提案する「クリスタルハート」のほか、高級オーダーメイドツアーや自由旅行など5ブランドを有し、「支

社会状況やツアーの成果を次のプランに迅速に反映させる。企画のレイアウトは旅の企画担当者任せ、商品の独自性や質に対する責任意識を高めている。「10万円のツアーで20万円の価値を享受」を掲げられれば「大満足」となるし、5万円程度の価値しか感じられなければ「だまされた」となる。大事なのは旅の中身です。感動を提供するだけでは顧客の半数はリピーター、旅慣れた人々を満足させるため、プランを企画する現場の社員は試行錯誤の日々だ。海外は、人気の高いクルーズをほ

「10万円のツアーで20万円の価値を享受」を掲げられれば「大満足」となるし、5万円程度の価値しか感じられなければ「だまされた」となる。大事なのは旅の中身です。感動を提供するだけでは顧客の半数はリピーター、旅慣れた人々を満足させるため、プランを企画する現場の社員は試行錯誤の日々だ。海外は、人気の高いクルーズをほ

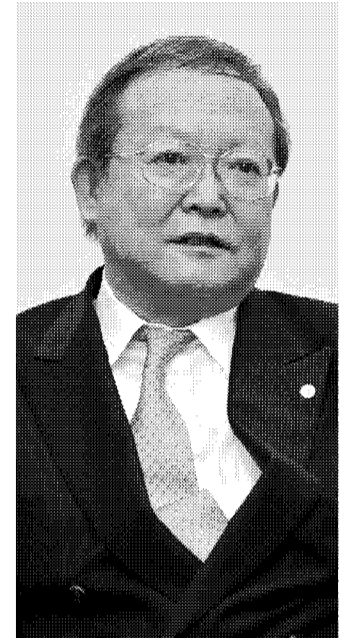
旅は「感動」から「オドロキ」へ

昨年日本大震災により不振にあえいだ旅行業界。その中で阪急交通社は、旅行取扱高を小幅減少し、回復基調に乗った12月の海外旅行取扱高に較べれば前年比16.5%増と健闘。円高やロンドン五輪などプラス要因の多い2012年はどう見ているのか。

「今年以降は、65歳以上の旅のニーズが増える」と予想します。1947年生まれを中心とした団塊世代の退職者が多く発生するのは2007年と推定されています。定年延長や再雇用が進み、本格的に退職が始まるのは2012年だと思われるからです。団塊世代は自分の好みやこだわりがはっきりしている。旅への欲求も千差万別です。私が47年生まれましたので、よくわかります。

「メディア販売による機動性の高さが売り」

じめ、上質な旅を希求性の高い旅が注目を集めています。国内は、新幹線が全線開通した九州をはじめ、西日本方面が伸び、東北方面の商品も動き始めています。インバウンド(訪日外国人旅行者)も、震災の影響で一時落ち込みましたが、アジア地域からのツアーを中心に速いペースで回復しています。添乗員時代、成田空港の税関を二歩抜いたら、「もうここは外国」と、自



1947年東京都生まれ。71年慶應義塾大学文学部卒。同年阪急交通社入社。76年マドリッド、ローマ、パリなど欧州に短期駐在。99年西日本主催旅行営業部長としてメディア販売の責任者となる。00年取締役、02年常務執行役員、06年専務執行役員、08年副社長、10年4月から現職。

「メディア販売による機動性の高さが売り」

「海外は、人気の高いクルーズをほ

「メディア販売による機動性の高さが売り」

生井一郎さんがすすめる5冊: 『文藝春秋にみる「坂の上の雲」とその時代』、『ミシュラン 三つ星と世界戦略』、『フォーシーズンズ 世界最高級ホテルチェーンをこうしてつくれた』、『プレミアム戦略』、『ヴェネツィア帝国への旅』

三笠書房: うつ病は重症でも2週間で治る、もしも... 『うつ病は「考え方を変えなさい」というメッセージです』

大人もぞっとする 『グリム童話』 『日本昔ばなし』

1分で悟りが開ける! 『ブッダの言葉』 『ブッダの言葉』

『交渉力を身につける』 『ハワード流交渉術』 『議論に絶対負けない法』

一流の男、二流の男: 必ず望む結果を引き出せる! 『一流の男、二流の男』